

サツマイモ空洞症の発生低減に向けて

～サツマイモ高品質生産を通じた産地ブランドの維持～

1 活動のねらいと背景

千葉県北総地域にはサツマイモ産地が広がっており、特にＪＡかとり香取西部園芸部はサツマイモ栽培面積587ha、販売額45億円（令和６年）の県内有数のサツマイモ産地です。サツマイモについては、昨今の焼き芋ブームや様々なスイーツへの利用など注目を集めている品目であり、産地間競争が激しくなりつつあります。



サツマイモ空洞症

そのような中、令和５年に内部がスポンジ状になり、空洞（す）が入るような症状（空洞症）のイモが一部品種において大規模に発生しました。以降、関係機関が連携して発生要因についての調査を進めてきた結果、空洞症が発生しているイモではデンプンの蓄積が少ないこと、高温乾燥が大きな原因となっていることがわかってきました。そこで、考えられる対策について産地全体に周知を図り空洞症発生を低減するための普及活動を展開しました。

2 普及活動の経過

（１）空洞症発生低減に向けた取組

ア 作業時期ごとに対策資料を作成し、全サツマイモ生産者に配布しました。

イ 園芸部全体に向けた栽培勉強会において、空洞症に関する発生要因と次作での発生減少に向けた対策についての講習を実施しました。ＪＡ成田市でも講習会を開催し、成田市内のサツマイモ産地に広く周知しました。

（２）空洞症の詳細な発生要因解明のための調査

ＪＡ及び生産者協力のもと、令和６年から継続して甘藷作柄検討会の全出品物に対する空洞症発生調査を実施しました。調査結果は園芸部に周知し、収穫物の検品に、より注意を払うよう呼びかけを行いました。また、出品物に発生が確認された生産者については、収穫物とほ場の追跡調査を行っています。



作柄検討会でのサンプリング調査

3 活動による変化と動き

（１）空洞症発生低減に向けた取組

ア 資料の配布による対策の呼びかけ

園芸部のサツマイモ生産者全戸に向けて、作業時期ごとに対策資料を配布したことでタイムリーに周知でき、特に「かん水」「害虫防除」「選別」については、

効果的に実施してもらうことができました。

「かん水」は、6月中旬から7月上旬に空洞症が大発生した令和5年と同様、高温乾燥状態が続いたため、かん水をするよう呼びかけ、ほ場かん水を実施する生産者が現れました。

「害虫防除」は、空洞症発生防止の観点から防除の重要性についてチラシを配布するとともに、防除適期である害虫の初発のタイミングも周知したところ、適期での防除を実施できたほ場が増え、産地全体として害虫の食害を減らすことができました。

「選別」は、空洞症の発生が確認されたタイミングで注意喚起と選別の徹底を呼びかけ、空洞症イモの出荷物への混入減少を図りました。

イ 栽培勉強会での周知

空洞症が発生しているイモはデンプンの蓄積が不足していること、大きな発生原因は高温乾燥によるものであることを説明し、充実が良いイモを作るための栽培上の注意点と高温乾燥対策の重要性を周知しました。その結果、植付直後の高温を回避するため6月上旬までに植付けを終わらせる、発生しやすい品種をかん水できるほ場に優先的に作付けする、ほ場かん水を実施するといった対策を実施する生産者が増え、これまでの生産体系を変えるような意識の変化が見られています。

令和7年も夏季の高温乾燥が厳しく、依然、空洞症の発生は抑えられてはいないものの、各生産者が空洞症回避のための各種方策を実践したことで、発生は小規模となっています。

(2) 空洞症の詳細な発生要因解明のための調査

作柄検討会出品物での発生状況を周知し、空洞症の発生したイモの混入を防ぐための選別徹底を意識付けたことで、選別に対する意識がより高まりました。また、出品物に発生が確認された生産者の追跡調査により、詳細な発生要因の解明を行っています。

4 今後の課題と活動

(1) 空洞症の発生を抑える栽培方法の確立と普及

これまでの調査の結果、空洞症の発生しやすい気象条件やほ場、生育状況の傾向については徐々に明らかになってきました。今後も詳細な発生要因を解明するための調査を進めるとともに、発生防止対策を周知していくことで、産地全体として空洞症発生の低減を目指します。また、効果的なほ場かん水方法の確立等により、空洞症の発生を抑えられる栽培法を確立していきます。

(2) 適正な出荷調製作業の徹底と発生状況等についての関係機関との情報共有の強化

産地においては、洗浄時に水に浮いたイモの出荷を控えるなどにより、空洞症が発生したイモの混入を少なくする取り組みが実施されており、これら適正な出荷調製作業の徹底を図ります。また、発生時においては、市場も含めた関係機関の情報共有体制を強化することで、産地のブランド維持を図ります。

5 担当グループ名 成田グループ